



一般財団法人 日本科学技術連盟 ソフトウェア品質管理研究会

基礎コース 「ソフトウェア品質保証の基礎」 活動報告

| 2026.3.13 | 2025年度 成果発表会 |



01. 研究員紹介

研究員紹介



石川
聖

会社名
アンリツ株式会社

業務内容/業種
品質管理/メーカー
(機器、電気)

他己紹介
静かな情熱を持ち、学
びに真摯に向き合う方。



岩田
茉央

会社名
ブライシス株式会社

業務内容/業種
品質保証/ サービス

他己紹介
年齢近いのに落ち着い
ている。質問がうまい。



栗原
春香

会社名
株式会社ゼネラル

業務内容/業種
品質管理/ メーカー
(機器、電気)

他己紹介
若々しく自立した意見の
持ち主。



田中
友也

会社名
東京海上日動システムズ
株式会社

業務内容/業種
開発 / 金融系SIer

他己紹介
疑問点の言語化が上手。
周りをよく見ている。



高野
由衣

会社名
東京海上日動システムズ
株式会社

業務内容/業種
開発 / 金融系SIer

他己紹介
しっかり者の頼れるまと
め役。



鶴岡
香

会社名
TIS株式会社

業務内容/業種
品質管理/ 独立系SIer

他己紹介
安定感あるしゃべりのき
さくなベテラン。



富山
玲於乃

会社名
日本電気通信システム
株式会社

業務内容/業種
品質保証/ 通信

他己紹介
寡黙ながらもユーモア
と誠実さが光る仕事人。



水野
響

会社名
NTTドコモビジネス
株式会社

業務内容/業種
品質保証/ 通信

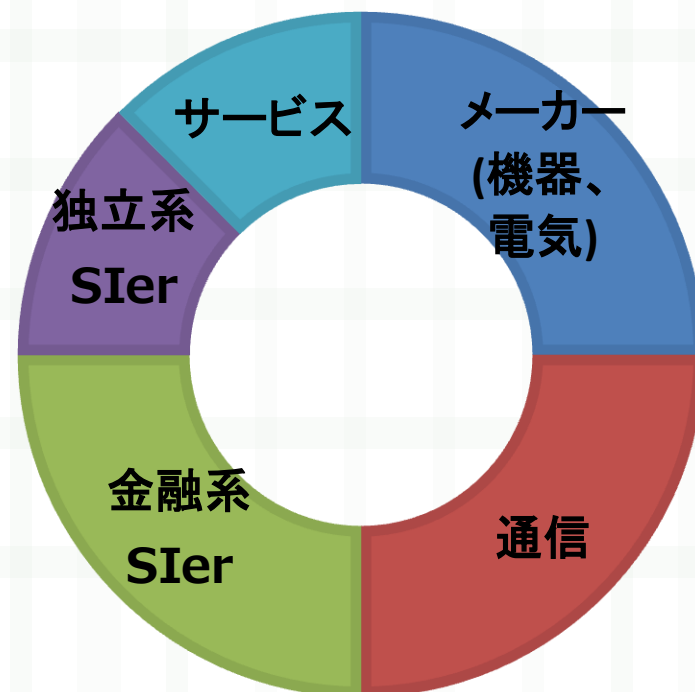
他己紹介
リーダーシップがありと
ても頼りになる方です！

研究員紹介

様々な業種の会社から参加しています。
それぞれの品質保証に対する取組を共有し、ともに研究しました。

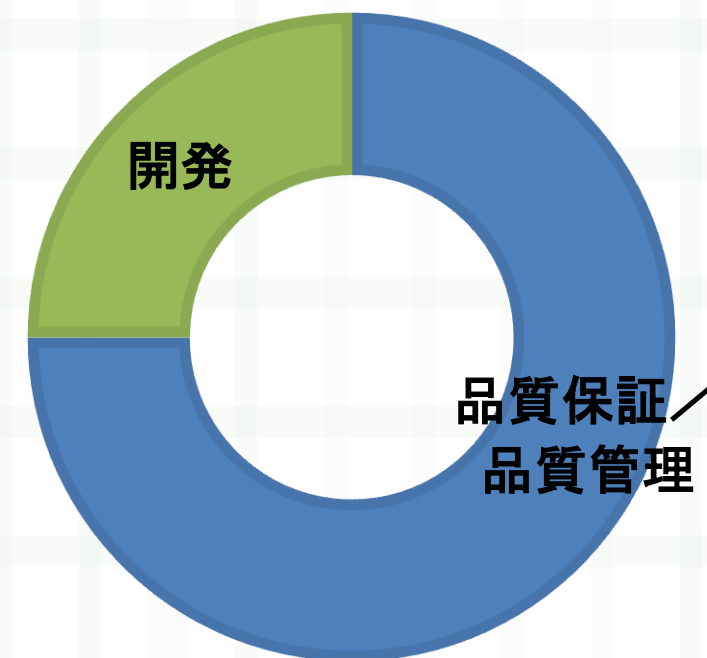
メーカー、通信など
様々な分野から参加

所属企業の業種



品質保証／管理を業務として
いる研究員が多い傾向

業務内容





02. 参加動機



参加動機

学習



- ・ 基礎を体系的に学び直したい！
- ・ 新たな品質管理手法や技術を知りたい！

繋がり



- ・ 他社の事例を知りたい！
- ・ 他社との比較、議論をしたい！

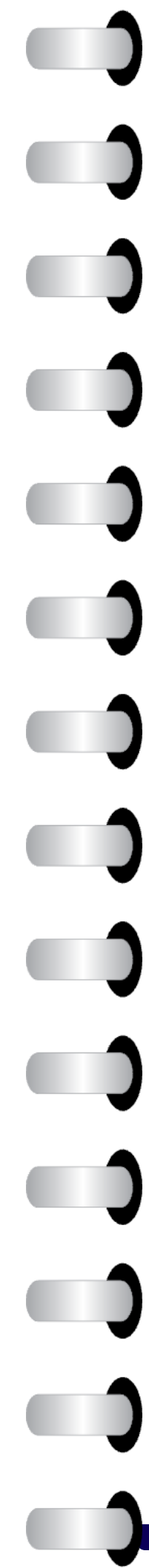
改善



- ・ 自社の品質問題を改善したい！
- ・ 自社の品質プロセスや手法を改善したい！



03. 指導講師



指導講師



岩井 慎一



土屋 治世



飯泉 紀子

役割	主査	副主査	アドバイザー
所属	株式会社デンソー	SCSK株式会社	丞コンサルティング株式会社
ソフトウェア 経験年数	29年 ・解析ソフト ・ソフトシステム設計 ・プロセス改善 ・品質保証	33年 ・ソフトウェア開発 ・プロセス改善 ・QMS推進	31年 ・組み込みソフトウェア開発 ・製品の付加価値創造の研究 ・高品質・高効率ソフトウェア開発手法の研究
研究員からの 第一印象	・言いにくいことをズバズバ 言いそう ・穏やかそうだけど要所は抑 える安定感がある	・周囲と一緒に物事を 考えてくれそう ・笑顔ではつらつとした雰囲気	・周囲から一歩引いて、俯瞰 して全体を見ているイメージ ・てきぱき、パワフル姉さん



04.分科会の進め方

分科会の進め方

各回、前半は講義受講、後半はディスカッションを実施。

講義

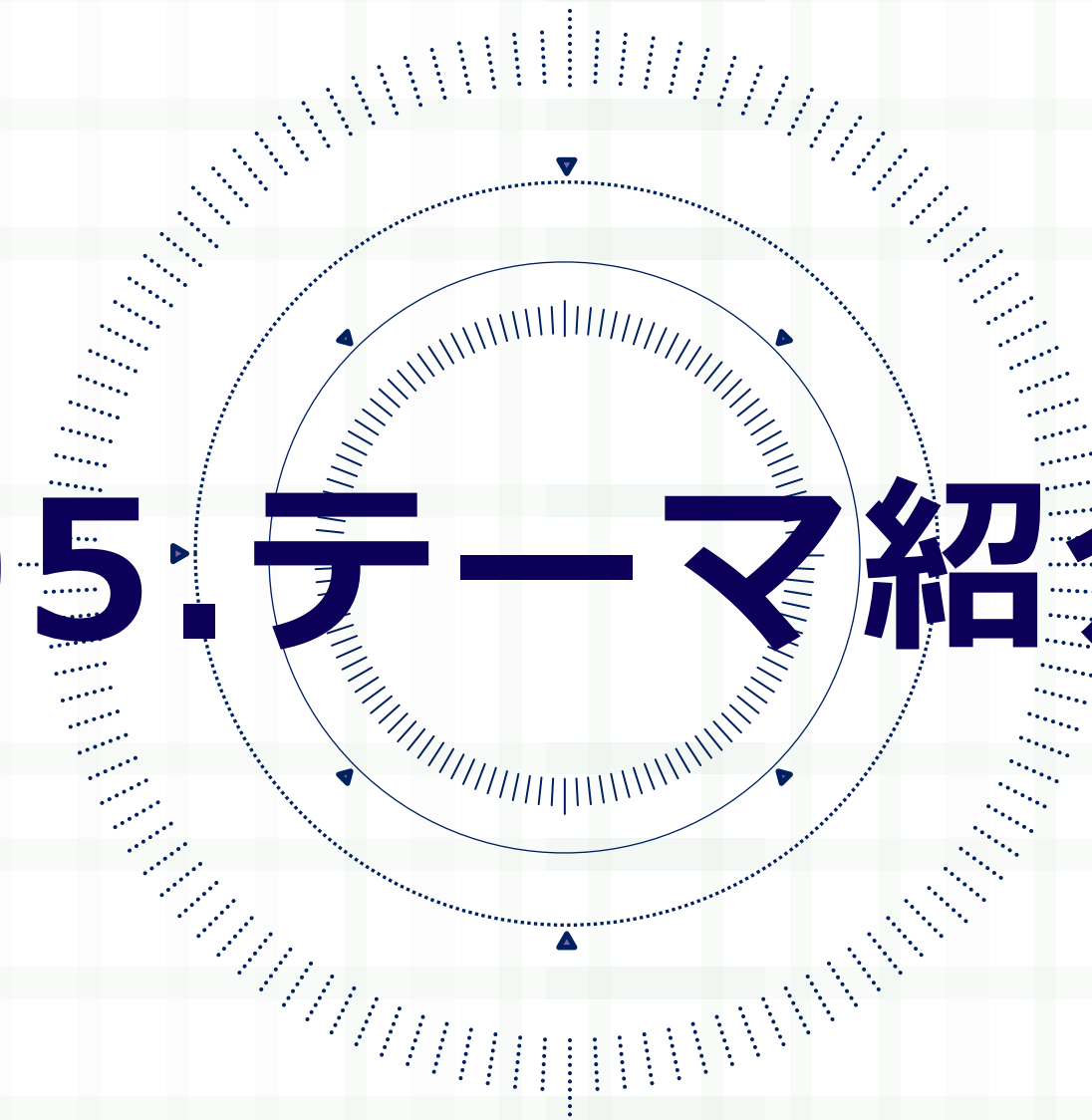
ソフトウェア品質保証の基礎技術について、当該技術の専門家による講義を受講



ディスカ
ッション

講義テーマについてディスカッションを通じて、自社の改善に役立つ情報や知見を交換

05. テーマ紹介



テーマ一覧

実施月	テーマ	キーワード
5月	品質の基礎	ソフトウェア品質の基礎
6月	品質マネジメントシステム	ソフトウェア品質マネジメントシステム、ソフトウェア品質保証
7月 (合宿)	アジャイル開発の基礎と品質確保のポイント	専用QE、スクラムチーム（プロダクトオーナー、スクラムチーム、開発チーム）
8月 (特別)	レビュー技術	レビューの目的、レビューの分類、欠陥検出方法、インスペクション
10月	ソフトウェアテスト技術	テスト自動化、ブラックボックステスト、ソフトウェア品質特性
11月	UX (User Experience)	演習コースⅢと合同開催 デモ体験
12月	AI の基礎	AIシステム、AIガバナンス、AI事業者ガイドライン
1月	要求分析 プロジェクトマネジメント	リスク管理、ゴールの達成、無駄をなくす、要望・要求・要件分析
2月 (特別)	メトリクスの基礎	データ指向のマネジメント、メトリクスの可視化、開発工数や規模の測定

印象に残ったテーマ①

アジャイル開発の基礎と品質確保のポイント

印象に残った理由

- ・ 2日間の合宿で基礎から集中的に学習できた！
- ・ 自社で運用開始したばかりだったので参考になった！



学んだこと

- ・ アジャイルは分析からテストまでを短期間でブレンドする
 - ⇒ 実際作ってみなければ価値を実感しにくい製品に有効
 - ⇒ Planで考えるよりはDoで探る
 - ⇒ まずはスクラムチーム作りが大事
- ・ アジャイルで品質確保をさせるには
 - ⇒ チームメンバーの学習・フィードバックが大事
 - ⇒ 専任のQEを置くと効果的



アジャイルは目的ではなく手段！
ユーザー価値を見極めることが大事！

印象に残ったテーマ②

UX (User Experience)

印象に残った理由

- ・ 被験者となってユーザビリティテストを体験できた！
- ・ 業務に活かせるようなヒントがたくさんあった！



学んだこと

- ・ ユーザビリティテストはかなり専門的に実施される
⇒ 専用のテストスタジオ、ユーザーの視線解析など
- ・ 実際ユーザーに使用されなければ分からないことが多い
⇒ 開発の早い段階でのテスト実施が効果的
⇒ ウォーターフォールよりアジャイルの方が向いている



作ろうとしている製品は誰のため？
ペルソナをしっかりと立てることが重要！



06.活動成果



活動成果

参加前後の変化

参加前

■ 若手

- ・ 品質保証について知識がなく、業務の中で意識できていない。
- ・ 品質保証は開発業務と比べてアウトプットがみえにくく扱いにくい。
- ・ 開発を進めるうえで従わないといけないルールで開発の進捗を阻む壁というイメージ。

■ ベテラン

- ・ レビューやテスト実行を中心に品質を担保してきたつもりであるが不安。
- ・ 品質保証について体系的には学習できていない。

参加後

- ・ 品質保証に絶対的な正しい方法は存在せず、誰のためか、何のためかを意識することが大事であることが分かった。
- ・ 品質管理部門がどう開発に関わっているか振り返ることができた。
- ・ 品質保証は全員の仕事であり、開発の進捗を止めるものではなく、目的を達成するための手段であることが分かった。
- ・ 知識を体系的に習得でき、理解が十分でない分野の知識もアップデートできた。
- ・ 他社事例/課題について知ることができ、自社の強み/弱みがわかった。





活動成果

今後に向けて

- ・レビュー等について承認を目的とするだけでなく、指摘や気づきを得るためのレビューを重視して実践する。
- ・開発部門として、テスト技術の向上が品質保証に繋がると思ったため、テスト技術についてさらなる学習を進める。
- ・「三方良し」を目標に、品質管理部門としての活動を継続していく。
- ・自分(自社)だけで解決できない課題解決のため、研究会等に積極的に参加し、他社、参加者、講師の方からヒントを得ていく。





07.まとめ

まとめ

研究会で得た品質保証の知識と実践的な視点は、業務改善に直結する大きな財産となりました。ここで培った洞察と行動力を現場で活かし、組織の価値向上とより良いソフトウェア開発の実現へつなげていきます。

本研究会の活動に際し、ご指導を賜りました講師の皆さま、運営を支えてくださった事務局の皆さま、そして共に学び合った研究員の皆さまに深く感謝申し上げます。皆さまのお力添えにより、多くの学びと貴重な経験を得ることができました。

| 2026.3.13 | 2025年度 成果発表会 |

※本資料は研究会での学びを実践するためAIを活用して作成しました。

